

共通テスト対策教材の「ズバピタ」をご紹介

2023共通テストに「2023重要問題演習 古典」と同じ題材が出題されました

題材『俊頼髓脳』がズバピタでした

「2023重要問題演習 古典」

問題10 「歌論 『俊頼髓脳』」

10 次の文章は、平安時代に成立した『俊頼髓脳』の一節である。悪夢に苦しみめられて里へ下がっていた皇后を慰めようとして、公卿や殿上人たちが皇后のいる屋敷に集まり、池に船を浮かべて管絃の遊びをすることになった。本文は、紅葉の枝で飾り立てた船などを用意した場面から始まる。これを読んで、後の問い(問1～5)に答えよ。(配点 50)

その日になりて、人々、皆集り集まりぬ。御船はまうけたりや」と尋ねられければ、「皆まうけて侍り」と申し、その期になりて、鳥がくれより漕ぎ出でたるを見れば、なにとなく、ひたてたる船を二つ、装束を出でたるをかしかりけり。人々、皆乗り分かれて、管絃の具ども、御前より申し出だして、そのことする人々、前に置き、やうやう、さしまはすほどに、南の普賢堂に、宇治の僧正、僧部の君と申しける時、御修法しておはしけるに、かかるとありとて、もろもろの僧たち、大人、若き、集まりて、庭にみなみたり。童、とま法師に至るまで、しな装束すいて、さしきつ、群がれるたり。その中、良運といへる歌詠のありけるを、殿上人、見知りてあれば、「良運がさぶるか」と問ひければ、良運、目もななく笑みて、ひらがりにてさぶらひければ、かたはらに若き僧の侍りけるが知り、「し侍り」と申しければ、「あれ、船に召して乗せて、連歌などさせさむは、いかがあるべき」といま一つの船の人々に申し合はせければ、「いか、あるべからず。後の人々、さらでもありぬべかりけることかなと申さむ」となどありければ、さもあることとて、乗せずして、たださながら、連歌などはせさせむ、などさだめて、近う漕ぎ寄せて、「良運、さりぬべからむ連歌など、して参らせよ」と人々申されければ、さる者にて、もしさやうのこととあるとて、まう

「もみち葉のこがれてみゆるみふねかと申し侍るなり」と申しかけて、福りぬ。人々、これ聞き、船々に聞かせて、付一めぐりほどに付けて言はむしけるに、えりなりになりけり。A「なほえ付けたりければ、船ぬは、日は皆暮れぬ。いかがせむむ」と、今りぬ。こごとしく、管絃の物の具申しおろし法するほどに、普賢堂の前に、こほく多かりつことしたがひて皆逃げておのの失せに

解答・解説

重要問題演習 2023 共通テスト

本文「俊頼髓脳」の本文は、平安時代に成立した『俊頼髓脳』の一節である。悪夢に苦しみめられて里へ下がっていた皇后を慰めようとして、公卿や殿上人たちが皇后のいる屋敷に集まり、池に船を浮かべて管絃の遊びをすることになった。本文は、紅葉の枝で飾り立てた船などを用意した場面から始まる。これを読んで、後の問い(問1～5)に答えよ。(配点 50)

その日になりて、人々、皆集り集まりぬ。御船はまうけたりや」と尋ねられければ、「皆まうけて侍り」と申し、その期になりて、鳥がくれより漕ぎ出でたるを見れば、なにとなく、ひたてたる船を二つ、装束を出でたるをかしかりけり。人々、皆乗り分かれて、管絃の具ども、御前より申し出だして、そのことする人々、前に置き、やうやう、さしまはすほどに、南の普賢堂に、宇治の僧正、僧部の君と申しける時、御修法しておはしけるに、かかるとありとて、もろもろの僧たち、大人、若き、集まりて、庭にみなみたり。童、とま法師に至るまで、しな装束すいて、さしきつ、群がれるたり。その中、良運といへる歌詠のありけるを、殿上人、見知りてあれば、「良運がさぶるか」と問ひければ、良運、目もななく笑みて、ひらがりにてさぶらひければ、かたはらに若き僧の侍りけるが知り、「し侍り」と申しければ、「あれ、船に召して乗せて、連歌などさせさむは、いかがあるべき」といま一つの船の人々に申し合はせければ、「いか、あるべからず。後の人々、さらでもありぬべかりけることかなと申さむ」となどありければ、さもあることとて、乗せずして、たださながら、連歌などはせさせむ、などさだめて、近う漕ぎ寄せて、「良運、さりぬべからむ連歌など、して参らせよ」と人々申されければ、さる者にて、もしさやうのこととあるとて、まう

2023共通テスト 国語

【出典】2023年度大学入学共通テスト(本試験)より。

第3問 「古文」 源俊頼『俊頼髓脳』／源俊頼『散木奇歌集』 (配点 50)

第3問 次の文章は源俊頼が著した『俊頼髓脳』の一節で、殿上人たちが、皇后尊子のために、寛子の父・藤原頼朝の邸内でも遊びをしようとするところから始まる。これを読んで、後の問い(問1～4)に答えよ。なお、設問の都合で本文の段落に①～⑤の番号を付してある。(配点 50)

① 宮司ども集まりて、船をばいかりかすべし。紅葉を多くとりやりて、船の屋敷にして、船さしは侍の、若からむをさしたりければ、俄に神楽の楽女などしてさきまきり、その日になりて、人々、皆集り集まりぬ。御船はまうけたりやと尋ねられければ、「皆まうけて侍り」と申し、その期になりて、鳥がくれより漕ぎ出でたるを見れば、なにとなく、ひた照りなる船を二つ、装束を出でたるをかしかりけり。いとかしかりけり。

② 人々、皆乗り分かれて、管絃の具ども、御前より申し出だして、そのことする人々、前に置き、やうやうさしまはすほどに、南の普賢堂に、宇治の僧正、僧部の君と申しける時、御修法しておはしけるに、かかるとありとて、もろもろの僧たち、大人、若き、集まりて、庭にみなみたり。童、とま法師に至るまで、しな装束すいて、さしきつ、群がれるたり。

③ その中、良運といへる歌詠のありけるを、殿上人、見知りてあれば、良運がさぶるかと問ひければ、良運、目もななく笑みて、平がりにてさぶらひければ、かたはらに若き僧の侍りけるが知り、「し侍り」と申しければ、「あれ、船に召して乗せて連歌などさせさむは、いかがあるべき」といま一つの船の人々に申しあはせければ、「いか、あるべからず。後の人々、さらでもありぬべかりけることかなと申さむ」となどありければ、さもあることとて、乗せずして、たださながら連歌などはせさせむなど定めて、近う漕ぎ寄せて、「良運、さりぬべからむ連歌などして参らせよ」と、人々申されければ、さる者にて、もしさやうのこととあるとて、まうけたりけるにや、聞きけるままに程もなくかたはらの僧どもを言ひければ、その船、いとかしかりけり。

④ 人々、これ聞き、船々に聞かせて、付けむしけるが連がれば、船を漕くともなく、やうやう葉馬をめぐりて、一めぐりの程に、付けて言はむしけるに、え付けたりければ、むなく過ぎにけり。「かに「運」と、たがひに船があらそひて、二めぐりなりけり。なほ、え付けたりければ、船を漕がで、鳥のかくれに、「ゆかへすがへすむらさきとなり、これを、今まで付けぬは、日はみな暮れぬ。いかがせむむ」と、今は、付けむの心はなく、付けてやみまむことと嘆く程に、何事も、覺えずなりぬ。

⑤ ことごとしく管絃の物の具申しおろして船に乗せたりけるも、いささか、かきならす人もなくやみにけり。かく言ひ淨法する程に、普賢堂の前に、こほく多かりつる人、皆立ちにけり。人々、船よりおりて、御前にて遊ばむと思ひければ、このことしたがひて、皆逃げておのの失せにけり。宮司、まうけたりければ、いたつにてやみまひけり。

【出題意図】「重要問題演習」では、素材文のジャンルのバランスにも留意しており、歌論も収録しておきたいと考えて『俊頼髓脳』を選定しました。また、『俊頼髓脳』は説話的な部分が多く、共通テストでみられる複数テキストの出題に適していたこともあります。

【本書の活用で】共通テストでは文章の内容を概括する設問が出題されており、一度しっかり取り組んだ生徒には時間短縮になったでしょう。また、「連歌」「掛詞」に関する知識も役立つと思います。【2024共通テストに向けて】今回は連歌でしたが、和歌については引き続き留意しておきたいところです。「重要問題演習」でも多様な形式で和歌についての設問を収録しています。

重要問題演習 2023 共通テスト

古典